



上尾の夏、笑顔の夏

祭囃子に山車、神輿。屋台から漂う美味しそうな香りに、笑顔で行き交う人波。祭りが近づくと期待に胸が弾む人も多いのではないのでしょうか。

毎年大勢の人が心待ちにしている上尾の祭りの中から、あげお花火大会、上尾夏まつり、どろいんきょ行事の三つを紹介します。

上尾のまちが熱気と興奮、人々の笑顔に包まれる数日間。夏の醍醐味を味わってみませんか？



交通規制区域 (17時30分～)
 所 平方地区の荒川河川敷(開平橋からリバーサイドフェニックスゴルフ場まで)
 ※16時から JR 上尾駅西口より会場付近まで随時、臨時バス(有料)を運行します。
 ※詳しくは市観光協会へ問い合わせてください。

問 上尾市観光協会
 ☎775-5917・☎775-5024

夜空を彩る夏の風物詩。こ
 としもあげお花火大会を盛大
 に開催します。約1万発の花
 火は県内でも最大規模です。
 3号玉から特大スターマイン

までの色とりどりの花火を打
 ち上げ、中でも「音楽花火」は
 毎年人気を博しています。
 夏の思い出の1ページを作
 りに出掛けてみませんか？

第19回
 あげお花火大会
 8月2日(土)
 19時～
 ※雨天の場合は
 8月9日(日)です。

上尾夏まつり

上尾の夏を語る上で欠かせないのが上尾夏まつり。JR上尾駅周辺で行われ、ここ数年では約8万人もの来場者が訪れる一大イベントです。日曜日には約350店の露店が軒を連ねる中、阿波踊りやよさこいソーラン、囃子や山車、引き太鼓などが盛大に行われ大変な盛り上がりを見せます。

一番の見どころである8町内連合の神輿渡御は、昭和43年に市制施行10周年を記念して愛宕・仲町・宮本町・上町の4町内が合同で実施したのが始まりでした。昭和52年には柏座と谷津が加わった6町連合渡御が開始され、その後二ツ宮、本町が加わり現在の形になりました。

威勢のいい掛け声と共に迫りくる勇壮な神輿渡御を、目の前で体感してみたいかがでしょうか。



- 交通規制区域 (20日(日))
- 東口周辺 12時～21時30分 (片付け終了まで)
- 西口周辺 18時30分～20時30分

所 JR上尾駅周辺
 問 上尾夏まつり実行委員会 (上尾商工会議所内)
 回 773-3111 ・ 775-9090

7月19日(土)各町内ごとの神輿渡御 20日(日)下記の通り

- 12:20 ~ 12:40 阿波踊り
- 12:50 ~ 13:20 あげおよさこいソーラン
- 14:30 ~ 8 町内大人神輿渡御開始
- 16:30 ~ 17:10 民謡輪踊り
- 19:00 ~ 19:20 山車ひっかせ
- 19:20 ~ 19:40 阿波踊り

※ 17時までNHK 特設テントでのイベントがあります。

7月19日(土)
20日(日)



平方祇園祭

どろいんきよ

県指定無形民俗文化財

7月20日(日)
13時～19時30分

泥を跳ね上げ

神輿を転がす

上尾市西部の平方上宿地区では、毎年7月中旬の日曜日

に一風変わった祭りが行われます。この祭りは「平方のどろいんきよ」と呼ばれ、装飾のない白木の神輿(いんきよ神輿)を水でぬかるんだ地面で転がします。泥を跳ね上げて力強く転がす若い衆には周囲の人からさらにバケツで水が浴びせかけられます。豪快に飛び散る泥しぶきは見物客にも容赦なく降りかかり、歓声とともに大きな盛り上がりを見せます。

悪疫退散・五穀豊穣を祈念して、平方の上宿・下宿・南・新田の4地区で伝承されてきたこの祭りは、昭和20年代に一時中断されました。その後昭和47年に上宿地区で再開さ

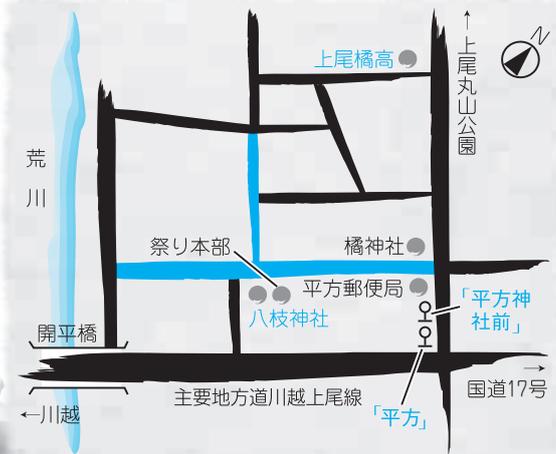
大人の泥遊び!

祭りの熱気と一体感を肌で感じに来てください

平方のどろいんきよ保存会
会長 永嶋 美喜雄さん



どろいんきよはいわば大人の泥遊びです。子どもが田んぼに入るとはしゃぐように、大人だって泥だらけになって楽しくないわけがありません。どろいんきよが近づくと今でも胸が躍ります。担ぎ手の若い衆も観客に見られていると一層気合が入ります。当日、祭り会場では来場者へのおもてなしもありますので、ぜひ見に来て熱気を肌で感じてください。



交通規制区域(開催時間内)※区域内は歩行者優先です。

八枝神社(平方)周辺

【交通】

JR 上尾駅西口から、市内循環バス“ぐるっとくん”「平方循環」「東西循環」で「平方神社前」バス停下車、または東武バス「平方方面行」で「平方」バス停下車
※県立上尾橋高校の駐車場が臨時駐車場になります。

生涯学習課 ☎775-9496 ・ ☎776-2250



親子 談話

受け継ぐ

伝統



石川 巖さん

石川 貴弘さん

父と子 それぞれの思い出

石川巖さん（以下…巖）どろいんきよには小学4・5年生の頃に父親の手伝いに駆り出されて行った事を覚えてます。酔っぱらった大人に巖、巖と大きな声で呼ばれるのが嫌で逃げ回ったこともありましたが、普段は見たことがない大人たちの楽しそうな姿が印象的でした。

石川貴弘さん（以下…貴弘）

石川巖さんはどろいんきよ復活当時から祭りに参加してきた一人。長男の貴弘さんは子どもの頃から父親と祭りに参加してきました。今回は親子で伝統を受け継ぐ2人にお話を伺いました。

祭りが結ぶ地域の絆

貴弘…どろいんきよをきつた子どもの頃から父に連れられて毎年のように参加していました。中学校の林間学校の時、一度だけ参加できなかったときは悔しかったな。私にとってどろいんきよは生まれてからずっとある行事ですが、父はどろいんきよの中断を経験し復活に携わっているんです。

巖…どろいんきよを復活させようという話になったのは、消防団の集まりの時でした。神社に眠っていた神輿や装飾品を引っ張り出してきて、これなら何とかなるだろうと言って準備しました。それから地区の年長者に祭りのやり方を教えてもらって、どうにか復活を遂げられたんです。

貴弘…よく他の地区から上宿は仲が良いなとつらやましがられますよ。それも昔からの住民だけじゃなくて、新しい住民にも分け隔てないんです。上宿地区のように伝統行事を重んじる地域は新しい住民が受け入れられるまで時間がかかると思われがちですが、その逆です。こちらから一緒に祭りをやろうと声を掛けますし、一度参加してもらうと地域にすぐ溶け込めます。

復活から40年

どろいんきよのこれから

巖…地域に若い人が少ないのが悩みですね。上宿地区は140戸ほどの世帯数で、子どもの

復活から40年

どろいんきよのこれから

巖…地域に若い人が少ないのが悩みですね。上宿地区は140戸ほどの世帯数で、子どもの

貴弘…子どもたちにお囃子（はやし）を教えているんです。教わった子は腕前を披露したくなるので、どろいんきよはそのお披露目の場としてうってつけなんです。そのうちに子どもは自主的に祭りに参加するようになります。やっぱり見てるだけより自分がやったほうが楽しいですね。

巖…どろいんきよが復活してからもう40年経ちました。これからは次の世代がどうやって継承していくかを見守っています。

復活から40年

どろいんきよのこれから

巖…地域に若い人が少ないのが悩みですね。上宿地区は140戸ほどの世帯数で、子どもの

